麦類の赤かび病について

１　赤かび病菌の産生するかび毒

　デオキシニバレノール（以下「ＤＯＮ」という。）やニバレノール（以下「ＮＩＶ」という。）は，麦類（小麦及び大麦）の赤かび病の病原菌であるフザリウム属のかびが産生するかび毒である。人に対する急性毒性として下痢，嘔吐等の中毒症状を引き起こすことが知られている。

２　麦類の赤かび病の格付け

ＤＯＮ・ＮＩＶは加工や調理工程においても完全に除去することは難しいため，生産段階において，その汚染を防止することが重要である。

農産物規格規定で，赤かび病被害粒率が0.0％を超える（正確には0.05％以上）麦類は規格外に格付けされる。

３　防除時期

　開花始期（小麦では出穂から約７日後，大麦では出穂から約３日後（穂揃期））と，開花始期の７～10日後の２回

４　その他詳細

　農林水産省ホームページ内の「[麦類のデオキシニバレノール・ニバレノール汚染低減のための指針（本文）（PDF：185KB）](http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/pdf/081217-01.pdf)」及び 「[指針活用のための技術情報（全体版）（PDF：3,266KB）](http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/pdf/081217-02.pdf)」を参照してください。